

宇宙平和宣言

一九四七年以来、俗に「空飛ぶ円盤」と呼ばれる謎の飛行物体が地球上空に頻々と出没し、世界各国の政府或は民間研究機関はたゆまざる調査研究の努力をつづけてここに十年を経たのであるが、今日に至るも未だその真相の全貌は白日の下にさらされていない。しかしながらこの間、世界各地におけるおびただしい数の目撃、レーダー観測、航空機の遭遇、はては戦闘機による追跡その他の実例を慎重に検討の結果、今日では「空飛ぶ円盤」と呼ばれるものが、人類文明の所産、或いは自然現象等てなく、恐らくは他の天体より飛来する宇宙機であろうことは、もはや疑いの余地がなくなってきた。

ひるがえってわが地球上の現状を見るに、飽くなき貧慾と猜疑心による大國間の対立は、偏狭なる國家意識と民族感情を支えとして次第に尖鋭化し、核兵器及びミサイルの発達はこの傾向にますます拍車をかけている。かゝる状況下において一たび全面戦争の勃発を見れば、これらの大規模の兵器によって地球の文明は崩壊し、人類は絶滅の危機に瀕するであろうことは、火を見るよりも明らかである。しかもこれらの予行演習としての核爆発の実験が、人類の生存に及ぼすであろう影響には予測を許さないものがあり、われ／＼を不安と恐怖におののかせている。

未知の世界より未知の物体が、われ／＼の頭上に日夜飛来しつゝ、ある現実を思うとき、地球人類のこの醜状は誠に寒心に堪えない。もとより空飛ぶ円盤の搭乗者が、われ／＼に友好的であるか否かは現在の段階では知るよしもないが、いずれの場合にもせよ対立混迷を続ける人類の現状では、彼等に応接する準備もできていない。今や人類は一國家、一民族の立場をのり越えて、汎宇宙的な地球人としての立場よりすべてを考へ、行動せねばならぬときであることを確信する。

また人類は今世紀半ばにおいて原子力解放の偉業を成し遂げ、今また人工衛星の打上げに成功し、宇宙旅行の実現に向つて巨歩を進めつゝあり、まさに人類文明の一大躍進期に直面しているとの感を深くする。このときに当り、たゞ／＼他の世界よりの訪問者を迎へんとしつゝあることは、故なしとしないではないか。

よつてわれ／＼空飛ぶ円盤の研究者は、この世紀の謎の解明に全力を挙げることを通じて、全人類に広大な宇宙の真相に目を向けさせ、より大いなる人類意識に目覚めさせて、世界の平和を実現し、さらには人類文明の一大転機に対処しつゝ、宇宙全体の平和確立に向つて邁進するものであることを、こゝに宣言する。

一九五七年十月二十日

全日本空飛ぶ円盤研究連合

本部 東京都品川区五反田一丁目二六八JFSA内

日本空飛ぶ円盤研究会 (JFSA)

代表 荒井 欣一
東京都品川区五反田一丁目二六八番地
TEL (73) 三九〇三 (41) 九五五七

空飛ぶ円盤研究グループ (FSG-J)

代表 松村 雄亮
横浜市磯子郵便局私書函十八号

日本UFOクラブ (UFO CLUB-J)

代表 市岸 一四
浦和 仙波 順

近代宇宙旅行協会 (MSFA)

代表 高梨 純一
大阪市西成区長巳通一ノ三
理事長

京大空飛ぶ円盤研究会

代表 川瀬 保孝
京都市左京区北白川東平井町九